

ある。

私は凡てのものを信する前に、先第一に私自身の實在を信じなければならぬ。そして私の肉體的存在は空想や想像や理屈ではない、たゞ事實だ、絶対不可侵の事實だ。

私の肉體的存在は、私の國家日本國の形體的存在である。

私の祖先が私に遺してくれたもの、うち最も切實なるものは私のこの肉體であつて、この肉體を如何に所置するかといふ

ことが、現在私にとつて最も重大なる問題であるならば、それは同時に日本國を如何にせんと云ふ問題に外ならない。

國家の存在は個人ごじんの存在そんざいを以て基本とする。個人ごじんの存在そんざいに

して確實たつとならずんば、國家こくがの存在そんざい亦不確實たつとならざるを得ない。そして確固たつとたる中心ちゆうしんに立脚りつかくせる個人ごじんの自由じゆうは、やがて國家こくがの自由じゆう神聖しんせいを保證ほしょうし、個人ごじんの害惡がいあくは常に國家こくがの害惡がいあくである。國家こくが本ほんは國民生活こくみんせいふの確固たつと不動ふどうなる中心ちゆうしんを示現しげんし、假定かていや空想くうさうや想像さうざうにあらすして事實じじつなるとき、それは絶大ぜつたいの理想りきさうであつて、個人ごじんの生命せいめいは常に國本こくほんに歸一きいつする。

私はクロボドキン、ドストエフスキー、トルストイ、オイケン、ベルグソン、シュライエルマツハ、ゼームス、その他その他輒近はんきん西北歐せいほくおうの權威けんいにびざまづいた。彼等かれらは等しく理想りきさうに渴かほいてゐた。絶對ぜつたいをつかまんとて悶もだいてゐた。眞理しんりに飢うえてゐた。